“そうか！なるほど！もっとできるぞ！”であふれる庄内っ子
～児童の思いに寄り添った実践を通して～

1　研究のねらい

過去二年間、児童の「主体性」を育むことをねらいとして、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を意識した研究を進めてきた。一昨年度は、主に個別最適な学びに重点を置き、一人一人の児童が、自分に合った課題の解決方法やまとめ方を提示されたものから選び、学習を進めたことで、児童は意欲的に学習に取り組むことができ、自分の考えや成果物に満足感を得ている様子（「そうか！」に当たる姿）であった。昨年度は、協働的な学びに重点を置き、友達との話合いや全体での話合いを経て、自分なりの考えを明確にもったり、活動を行ったりと、主体的な姿（「なるほど！」に当たる姿）が見られるようになってきた。

三年目の今年度は、個別最適な学びと協働的な学びの両方を一体的に充実させることで、より主体性をもたせたい。そのために、今年度は以下の三点に力を入れる。

【重点事項】
①　一人一人が本時または単元を通した目標を立てることができるようにする。
②　協働学習を行える場面を設定し、児童の思いを基に方法を選択できるようにする。
③　学習の振り返り場面を設定し、次時または今後の学びに生かすことができるようにする。

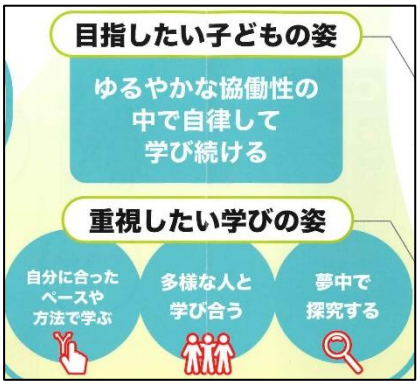
①に関しては、「（図画工作科の学習で）大きくて、迫力のある作品を完成させたい」というような本時の目標や、「（総合的な学習の時間における福祉の学習で）認知症について詳しく調べたい」という単元を通しての目標でも教科・領域の特性に合わせてよいこととする。

②に関しては、児童が特にじっくりと考える必要のある場面で設定し、教えるべきことと児童に気付かせることを分けて指導計画を立てる。

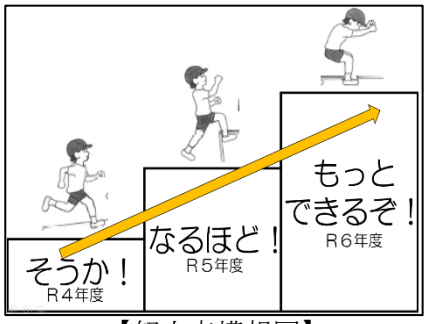
③に関しては、①で立てた目標に対して自分の学び方を振り返るとともに、「なぜできた（できなかった）か」という理由まで考えることができるようにする。

以上の重点事項は、「ナゴヤ学びのコンパス」の考えとも大きく関わっている。「ナゴヤ学びのコンパス」では、重視したい学びの姿として、「自分に合ったペースや方法を選ぶ」「多様な人と学び合う」「夢中で探究する」を挙げている。主に、「自分に合ったペースや方法を選ぶ」は①②、「多様な人と学び合う」は②、「夢中で探究する」は③と関わる。また、目指したい子どもの姿「ゆるやかな協働性」は、②と関わりが深い。さらに、①②③を意識した実践を行うことは、今後教師として「児童の伴走者」というあるべき姿を目指すことにもつながる。

また、以上のことを行うためには、普段から児童同士が安心感を抱くことができる雰囲気づくりを意識した学級経営も大切である。これらのことを意識して、さらなる主体性（「もっとできるぞ！」の姿）を育成していきたい。



【ナゴヤ学びのコンパスの抜粋】



【努力点構想図】